



バングラデシュ国  
ホビゴンジ県

バングラデシュ北東部大湿地帯（ハオール）における  
気候変動リスク軽減農業の普及

一般社団法人  
シエア・ザ・プランネット

現在、バングラデシュにおいて特に気候変動リスクが高い北東部の大湿地帯（ハオール：雨期には大部分が湖沼化する地域）において、リスク軽減のための新品種稲の普及ならびに雨期における作付けや乾期における野菜栽培などの技術普及を行っています。また、バングラデシュ南西部においては、地下水灌漑に頼らない稲作や野菜栽培への作付け方法の普及を実施しています。日本国内ではNGOのマネージメント研修やコンサルティングを行っています。

本事業の活動地であるハオール地域では、田植えの時期が早ければ冷害、遅ければ洪水の影響を受ける可能性が高いです。特に近年では、2017年の鉄砲水、2019年の冷害、2021年の熱波など、気候変動が原因とみられる災害が頻発し、稲の作付けに多大な影響をもたらすとともに、農業で生計を立てている多くの農民の生活は大変不安定になっています。

本事業では、こうした災害リスクを軽減するため、リスクが高まる時期を回避できるよう早生品種の導入と、作付け時期の適正化を目指し、ローカル NGO とバングラデシュ国立稲作研究所と共同で新しい早生品種の開発と普及を目指した活動を展開しています。

数年前から実地試験を行っているハイブリッド米“BRRI Hybrid Dhan 5”は昨年冷害に強く、かつ収量が高く、刈入れも早いことがわかってきました。また、稲作研究所（BRRI）では農民が種もみを保存でき、毎回購入しなくてもよい高収量品種米“BRRI Dhan 88, 89”を推奨しており、今年はこれらの品種も好成績を得ました。こうした結果は農業省も注目しており、4月には多くの新聞やテレビで紹介されたうえ、農業大臣も自ら現場に足を運びその成果を確認しました。

埼玉県国際交流協会からの助成は、作付け時期が集中する時期に適切に田起こしや灌漑ができるよう、農業機械の導入（2019年度）をするとともに、新しい品種の種子生産体制構築のための農村域での種子生産ならびに育種を行ってきました（2020年度）。まだまだ、課題はあるものの、昨年雨期にはこの地で初めてとなる雨期稲作を実施し、洪水に悩まされながらも収穫することができました。また、乾期作付けは苗に害虫が付き多くの農家で被害が出るほか、3月には記録的な熱波により、既存の品種は減収となっていますが、新品種では記録的な収量を得ることができました。

